

中島 教育音楽 小学版 2004年6月号

「特集Ⅰ 『声』と『表現』のステキな関係」を読んで

音楽師: 安田登

「うた」という言葉は「打つ」や「訴える」と語源を同じくする。

→人はみな歌うことが好きで、上手ははず。

ヴァイオリニスト: 金子飛鳥

人の声にはシャーマン的な力がある。

色々な表現の手段があることに気付いてほしい。

→「どんな表現でもいいんだよ」と言ってもらえる人が現場にいてほしい。

Q. 「声かけ」をどう取るか?

A. 教師としての声かけと、表現としての声かけの両方。

Q. 「シャーマン的」とは何?

A. 神子さん。神と交信できる人。

教師の声・話し方に注目するのもいいかも。

(質, 大きさ, 速さ, 数, 語いカ, など...)

とにかく大きな声で歌わせるという観念が日本に根づいている

美しい声とは?

山下 「創造的に取り組む身体表現」熊木真見子著(音楽之友社)を読んで

◎身体表現とは?

まず意志が必要だということ、違うことが大それたものだということは、人間の表現のすべてに共通している。

音楽も、楽譜も調も拍子もなく、とにかく決まりなど何もないところから始まった。

踊り(=身体表現)と音楽は即興的で生活に密着したものであり、切り離すことのできないものであったと考えられる。

Q. 対象は？

A. 幼稚園 ～ 小学校低学年くらい。

Q. もし、小学校の授業で取り入れるとしたら、題材名は何になるの？

A. 「身近な楽器で遊ぼう」とか、「身体表現をしよう」とか。

Q. 「コミュニケーションを育てること」に興味がある？

A. 表現や表現力（「ストップ&ゴー」などの遊び）に興味がある。だけど、
前（々）回のゼミで、コミュニケーションを育てることにも興味が出てきた。

Q. 教科書に載ってるの…？

A. 身体表現（個人、自己表現）のものや、手拍子、踊るもの…しか取り扱って
いない。（教科書分析より）

↓

コミュニケーションを取る（触れ合う）活動のものは載っていない。

どうして載っていないのか批判するのもおもしろいかも☆

↓

「コミュニケーションを取る遊び」のメリットを考えるべき。→ 高橋先生のところへ
「行こう！」

一度、「音楽」から離れて考えてみて、どうやって「音楽」に戻ってくるかが
問題だね。